



FUJI WOMEN'S UNIVERSITY

No.73

Dec.20, 2021

藤

藤女子大学
広報



CONTENTS

- 巻頭言～クリスマスと藤～／2
- 大学を360°バーチャル体験 3Dパノラマビュー公開／4
- 藤づる～繋がり～／8
- オンライン大学祭開催／9
- 私のカレッジライフ～私のお気に入りの場所(学内)編～／10

巻頭 言



クリスマスと藤

理事長 Sr.永田 淑子



「メリー・クリスマス!」「クリスマスおめでとうございます!」
毎年12月には、このキリスト教の挨拶が非キリスト教国の日本でも頻繁に交わされ、街中がその装飾と音楽で賑わいます。「クリスマス」が何なのか、その意味もよくわからないまま、一つのファッションのようになっています。

藤学園では幼稚園から大学に至るまで、全く異なるクリスマスの雰囲気包まれます。聖書に記述されているイエス・キリストご誕生の場面(ルカ福音書2章)に基づく、クリスマスの場面が美しく静かに再現された馬小屋(イタリア語ではpresepio、英語ではcrib)が飾られます。

この習慣は、本学北16条キャンパスの前庭に像のあるアジジの聖フランシスコが1220年頃にパレスティナからイタリアに戻った後、初めて1223年にベツレヘムでのイエス誕生の場面をイタリアのグレッチオという小さな村で再現したことに端を発します。これについてボナヴェントゥラによる『フランシスコ大伝記』(1263年)に次のように記されています。

「さて、死の3年前のことでした。フランシスコは献身の念を掻き立てるために、グレッチオの町で、出来得る限り荘厳に幼子イエスの誕生の記念を祝うことを決めました。これが新奇なことと見なされないために、あらかじめ教皇に願い出て、許可を得ていました。そうした上で、飼い葉桶を用意させ、干し草をもってこさせ、牛とロバとをその場に連れてきてもらったのでした。兄弟たちが呼び集められ、人々もやって来て、彼らの声が森に響き渡り、その尊い夜はたくさんの明るい光と、よく響く調和のとれた澄んだ賛美の声によって輝かしくも荘厳な夜となりました。敬愛の心に満ち、涙に濡れ、喜びにあふれて、フランシスコは飼い葉桶の前に立っていました。飼い葉桶の上で荘厳ミ

サがささげられ、フランシスコは聖なる福音を朗唱しました。次いで、周りに立っている人々に向かって、貧しい王キリストの誕生について説教を行いました。その方の名前を呼ぼうとする時には、やさしい愛情に満たされて〈ベツレヘムの幼子〉と呼ぶのでした。キリストへの愛のゆえに世俗の軍務を棄て、神の人フランシスコと非常に親しい間柄にあった、徳の高い、誠実な騎士であった、グレッチオのヨハネ殿は、その飼い葉桶の中には、非常に美しい男の子が眠っており、祝された師父フランシスコが両腕でその子を抱き、眠りから覚まさせようとしたのを自分は見たと断言しております。」(ボナヴェントゥラ『聖フランシスコの大伝記』第10章7より)

神の子イエス・キリストが人類の救い主としての使命を果たすために、神から遣わされて小さな赤子となってこの世に誕生し、十字架上で私たち全人類のために命を捧げてくださったことを思いながら心から感謝するのが降誕祭です。グレッチオのフランシスコ以来、このことを思い出すために、人間の心情に呼びかける具体的な形で表現して飾る習慣がカトリック世界に広がり、今日に至るまでの伝統となっています。神と人間との間に厳然と存在する深い淵を、赤子の姿で神の方から人間に近づいてくださった神秘を祝います。

フランシスコは、地域の人々と一緒に降誕祭を喜び祝いました。グレッチオの洞窟は険しい崖の中腹にあり、フランシスコと仲間たちは、その洞窟で隠遁の日々を過ごしました。しかし、この降誕祭のお祝いを地域の老若男女と一緒に準備し、牛やロバも借りて創り上げた喜びの場でした。そこで捧げられたクリスマスの貧しくも最高のミサ。藤学園のクリスマスも、地域の人々と喜びを分かち合う時となりますように。



テュイネの修道会本部のクリスマス



フランシスコが初めて視覚的にクリスマスを祝ったグレッチオの洞窟

藤女子大学未来共創フォーラム2021 報告

藤女子大学未来共創フォーラムの開催が5年目を迎えました。
今年度はコロナ禍における開催を実現するために、いずれもオンラインでの
公開講座として全3回開催しましたので、ご報告いたします。

第1回 2021年7月17日(土)

フェアトレードと私たちのこれから —— 国内外の実践例と女性からのまなざし

文学部 文化総合学科 准教授 上原 賢司

今回のフォーラムでは、有坂美紀氏(フェアトレードタウンさっぽろ戦略会議 事務局長)、川口景子氏(特定非営利活動法人アーシャ=アジアの農民と歩む会 インド事務局長)、奥村昌子先生(本学 食物栄養学科准教授)と上原の4名が登壇し、学術、行政、現場での実践といったそれぞれの観点からのフェアトレードの現状と今後についての報告が行われました。

フォーラムの具体的内容については紙幅の関係で載せられませんが、オンライン開催の利点が大きく活かされた会となりました。とりわけ、インドのウッタルプラデシュ州プラーグラージ県からの川口氏の報告では、現地のインド農村女性たちからお話を伺う貴重な機会も得られました。フォーラム終了後も、参加者を交えてインドと日本との間で旧交を温めあう、まさに今の時代だからこその実りあるフォーラムとなりました。

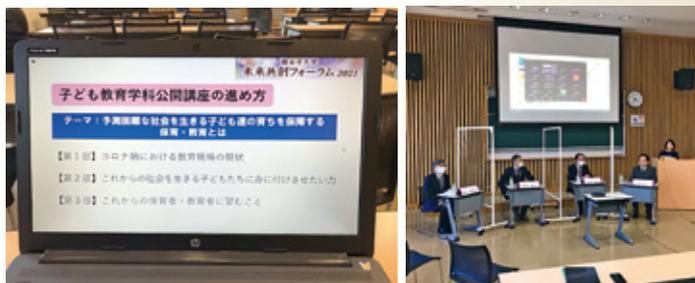
第2回 2021年10月30日(土)

予測困難な社会を生きる子どもたちの 育ちを保障する保育・教育とは

人間生活学部 子ども教育学科 教授 駒形 武志

本フォーラムは「子ども教育学科公開講座」として、オンラインで開催されました。参加者は道内小・中・高・大学関係者、保育関係者、本学学生・卒業生など、100名を超える規模となりました。

講座は、大室道夫先生(本学科教授)をコーディネーターとして、コロナ禍における教育現場の現況、これからの社会を生きる子どもたちに身に付けさせたい力、これからの保育者・教育者に望むことの3部構成で行われました。パネラーの笹山雅司先生(札幌市立かつこう幼稚園長)、野切卓先生(札幌市立伏見小学校長)からは、コロナ禍での日常実践や、校内研究の取組を通して、これからの子どもたちに身に付けさせたい力や、それを支える教師の姿が語られました。本学の庄井良信先生(本学科教授)からは『これからの社会を見据えた保育・教育とは～保育と教育の原点から希望の未来航路へ～』という表題で、保幼小の接続に関わり、「子ども理解」の重要性が提言されました。深い「子ども理解」は、保育と教育を支える根幹であり、本学科が最も大切にしたい観点の一つであることを改めて考えさせられました。



第3回 2021年11月27日(土)

文学研究から未来を考える —— 女性、環境、貧困

文学部 英語文化学科 准教授 岡本 晃幸

本フォーラムでは英語文化学科の教員3名が、未来のために考えなければならない社会問題について文学研究の立場から論じました。岡本はマーガレット・アトウッドのフェミニズム・ディストピア小説『侍女の物語』を紹介し、アメリカで30年以上の時を経て再注目されている背景などを話しました。ジェレミー・レッドリック先生(本学科准教授)は、多和田葉子氏のポスト3. 11小説の「不死の島」と『献灯使』において、放射能が環境や生物といった物質的なものだけでなく、ことばや生命の価値といった非物質的なものさへ「汚染」し「変異」させてしまう様子を論じられました。大桃陶子先生(本学科准教授)は、J・K・ローリング氏の『カジュアル・ベイカンシー』において描かれる、階級上昇の機会が失われた現代のイギリスの最底辺で貧困にあえぐ人びとについて論じられました。本シンポジウムが、あるべき未来の姿を考えるためのきっかけとなれば幸いです。

ご協力・ご参加いただきました皆さまには、この場をお借りして心より御礼申し上げます。社会貢献推進会議では今後とも地域・社会とのつながりを大切にしながら、本学の教育や研究成果等を発信できるようさまざまな企画の検討を重ねてまいります。来年度も皆さまのご参加を楽しみにしております。

(社会貢献推進会議議長 隈元 晴子)

大学を360°バーチャル体験 3Dパノラマビュー公開

こちらから
アクセス



コロナ禍等で本学への来校が困難な方や学内施設を見てみたい方のために、10月中旬、本学ホームページの新たなコンテンツとして『3Dパノラマビュー』を公開致しました。



本学ホームページ上のこちらのバナーをクリック

360°撮影が可能な3Dカメラを使って、8月下旬に5日間かけて両キャンパスで撮影を行いました。

この3Dパノラマビューは本学に興味を持った受験生はもちろんのこと、コロナ禍によるオンライン授業中心でまだまだ学内施設を使用することがない1、2年生をはじめとした在大学生や、お嬢様が通う大学を見る機会のない保護者、ご家族の方などにもご覧いただけたらと思います。

また、卒業生の方にとっても懐かしい施設や、卒業後に新たにできた施設をご覧いただけるコンテンツとなっておりますので、お手元のスマートフォンやパソコンからは是非アクセスしてみてください。 ※Internet Explorerでは閲覧できません。

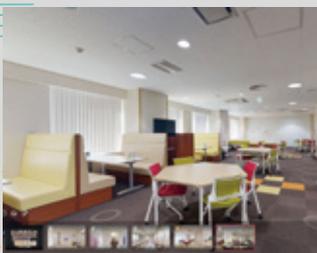
サイトの画面の説明



パノラマビューでは360°見渡せ、探索モードでは下の写真のように両キャンパスの各施設を自由に見て回ることができます。

探索モード画面の一例

北16条キャンパス



i.Learning Space



聖マリア聖堂

花川キャンパス



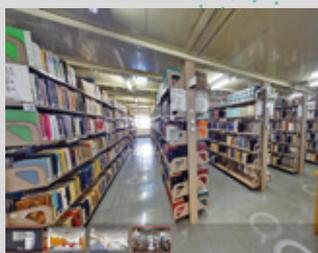
図書館



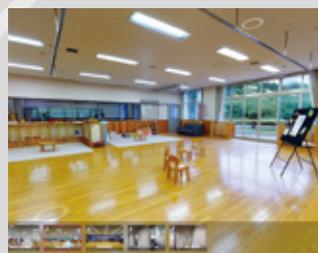
被服室



学生ロッカー室



書庫



保育実習室



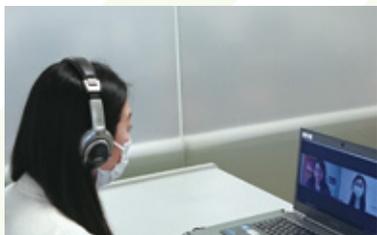
給食経営管理実習室

大学生活を支える

Part 2

大学事務局は、窓口業務や学生のサポート、大学の運営を支えるための様々な業務を行っています。全てではございませんが、前号に引き続き大学事務局の業務の一部をご紹介します。

キャリア支援課



キャリア支援課では「多彩な就職支援行事」「一人一人と向き合う個別相談」を中心に、社会人への大きな転換期を迎える学生を、心理面と準備面の両方からサポートしています。

北16条キャンパス、花川キャンパスそれぞれに職員が在籍し、学生の真剣な取り組みをバックアップしています。コロナ禍の2020年からは、オンラインでの個別進路相談、面接練習、書類添削等を開始しました。1対1での細やかな指導は学生満足度も高く、小規模な藤女子大学ならではの取り組みかと存じます。これからも学生にとって身近で温かみのある支援を続けてまいります。学年を問わず進路に関する相談を受け付けていますので、どうぞお気軽にご相談ください。

保健センター

学生の「こころ」と「からだ」のサポートをする保健室です。

保健センターには、保健師または看護師が常駐しています。体調不良、月経痛などのときにはベッドでの休養、相談、また怪我の応急処置もできます。医師、カウンセラーとも連携しておりますので、学生相談室の窓口としてもご利用ください。

コロナ禍で、戸惑うことも多いと思います。「どうしたらよいのか、誰に何を相談したらよいのか」わからなくなったときは、ひとりで悩まずに来てください。学生の皆さんが健康で、充実したキャンパスライフを送れることを、心から願っています。



北16条キャンパス



花川キャンパス

大会入賞の記録

2021.11.6現在

本学の学生が各大会において優秀な成績を収めました。
おめでとうございます。



北海道日中友好協会主催
第39回
全日本中国語スピーチコンテスト
● 暗誦の部 優勝
文化総合学科3年 星屋 ぴりさん



第47回
北海道女子学生剣道選手権大会
● 優勝
保育学科4年 荒木 里花さん



MOS世界学生大会2021
● Excel部門 入賞
英語文化学科3年 山中 環さん



札幌韓国教育院主催
第23回
北海道韓国語弁論大会
● 金賞受賞
英語文化学科3年 加藤 凜音さん



第37回
北海道女子学生剣道新人戦大会
● 団体戦 第三位
藤女子大学剣道部

心よりご冥福を
お祈りいたします。



元藤女子短期大学生活学科 教授 Sr. M. ヨゼファ 阿部 典子様

2021年8月23日ご帰天 87歳
北見藤女子高等学校で勤務の後、1962年藤女子短期大学家政科助手として着任。
1968年同講師、1972年同助教授、1979年同教授、1994年藤女子短期大学生活学科教授。
1996年～2001年の間は生活学科主任を併任し、2001年3月に定年退職。その後も、2001～2004年は藤女子大学人間生活学部食物栄養学科特任教授として勤務され長年に渡り本学を支え、学生の教育にご尽力されました。



藤女子大学の国際交流



◆学生企画型 国際交流イベント◆

国際交流クラブ「なでしこ」が企画・運営に参加、札幌市国際交流員の方を招いてお話し頂く「札幌市の姉妹都市魅力発見セミナー」をオンライン上で開催しましたのでその様子をご紹介します。このセミナーは、ドイツ国際交流員として幅広く活躍中のオリヴァー・ギール (Oliver Gierl) さんに、姉妹都市 (ミュンヘン) や事前に学生から寄せられた質問 (ドイツでのクリスマスの過ごし方など) についてお話し頂くというもので、その企画・運営を「なでしこ」所属学生が担当しました。運営に関わった学生から感想を寄せてもらいましたのでご紹介します。



オリヴァー・ギール氏Zoom講演の様子

「札幌市の姉妹都市魅力発見セミナー」に参加して

英語文化学科 2年 T.Mさん

国際交流イベントに企画の段階から参加するのは初めてだったのですが、運営側に立ってこそ、体験できるものが多かったです。今回は、主にミュンヘンの紹介とクリスマスについてのお話を聞かせていただいたのですが、セミナーを開催するにあたって、札幌とミュンヘンのつながりについて深く考えさせられました。ミュンヘンといえば、毎年冬に大通公園で開かれる「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」のイメージが強いということで、事前打ち合わせを重ね、クリスマスに関連した内容を扱うことになりました。

また、セミナーでは、札幌とミュンヘンの共通点として、どちらもビールのある町であることやオリンピックの開催地であったこと、どちらも山が近いこと等が挙げられていたのですが、様々な視点から2つの都市を眺めることで、ミュンヘンについて知るとともに、自分が生まれ育ってきた札幌について知ることにつながるのだなと思いました。これからクリスマスの季節がやってくるので、今回のセミナーを通して学んだミュンヘンの魅力を思い出しながら、札幌の冬を楽しみたいと思います。



国際交流クラブ「なでしこ」のメンバーと。向かって右から1人目が筆者。

◆オンライン外国語学習◆

海外大学が提供するオンライン韓国語プログラムに本学学生が参加しましたのでその様子をご紹介します。プログラム名称は「2021夏 漢陽大学国際教育院リアルタイムオンライン短期・韓国語課程」(本学向けに開講されたプログラム)、期間は9月6日(月)~9月17日(金)の2週間で費用は約45,000円/人。授業は平日3時間(朝9:30~12:30)で学生4名が参加しました。

またプログラム開始前後の計3回(1.5時間/回)、「参加者向けオリエンテーション」ということで韓然善先生(本学非常勤講師)に韓国語のご指導を頂き、無事全員プログラムを修了することができました。プログラムの様子や感想などを学生から寄せてもらいましたのでご紹介します。



2週間のオンラインプログラムを終えて

文化総合学科 3年 S.Aさん

夏休み期間中に2週間の漢陽大学オンラインプログラムへ参加しました。期間中の平日の3時間、韓国語漬けの毎日をご過ごしました。参加前は、最初から最後まで韓国語のみで授業を受けた経験がなく、また韓国語での会話経験が少なかったためとても不安でした。しかし、参加前に感じていた不安を忘れてしまうほど、授業内容の一つ一つが面白く、また毎日の課題や復習を苦に感じることなく2週間があっという間に過ぎていきました。

国際交流センターの方の協力もありオンラインプログラム開始前後に、本学で教鞭をとっていらっしゃる韓然善先生のサポート授業がありました。そこでは、授業で疑問に思った点や、もっと詳しく知りたいことを余すところなく教えていただきました。

本来予定していた長期留学は中止となり短い時間となってしまいましたが、国際交流センターの方々、漢陽大学の方々、そして韓先生のおかげで、韓国語を学ぶことや外国の方と会話することの面白さを改めて実感することができました。感謝を忘れずこれからも韓国語の向上に努めていきたいと思えます。



オリエンテーションご指導の韓然善先生、プログラム参加者と一緒に。向かって右から2人目が筆者。

大学へのご支援ありがとうございます

藤女子大学の寄付募集活動は、みなさまの温かいご支援により、2012年度からの累計が1億8千万円に達しました。寄付募集につきまして深いご理解とご協力に心よりお礼申し上げ、ここに感謝の意を表しご芳名を掲載させていただきます。2021年度のご寄付につきましては、次号の広報「藤」にて、使途等をご報告いたします。

寄付者ご芳名(第18回) 期間 2021年4月1日～2021年9月30日(敬称略・お申込順)

〈保護者〉	〈卒業生〉					〈教職員・役員〉	〈旧教職員・旧役員〉	〈その他、法人等〉
船田 由江	阿部和加子	清水 公子	渡邊 昌江	岡田 祐子	柳本 睦子	田中 彌八	(株) 札苔造園土木	
林 孝	渡部 佑菜	竹田 雅子	和田ひろみ	坂上 真子	福原 直樹	高橋セツ子	代表取締役 平野 優	
筒淵 芳郁	鶴飼 紅良	原田まどか	中町 瑛子	小川 信子	佐々木壽幸	知地 英征	藤の実会	
菊地 基	水野 典子	大野 紀子	内藤 陽子	川村佳乃子	匿名 4名		中嶋 奈弓	
北村 和也	斎藤夕美子	岩山 明美	菊地るみ子	高田 礼子	計 7名	計 3名	匿名 2名	
匿名 6名	川村 淳子	大野 芳枝	小熊 美江	石井 知子			計 5名	
計 11名	西部 克恵	三島美智子	栗山 静恵	松田 祥子				
	佐野三佐子	山田三枝子	大森 祥子	阿部 洋子				
	松岡 博子	吉井 恭子	長南 幸子	匿名 24名				
	新井田幸子	辻 桂子	斎藤 節子	計 68名				
	西野目郁子	松沢 和子	森 孝子					
	蕪山 啓子	永淵 昭枝	安倍みどり					

計94件 2,789,000円

2012年度実績: 377件 12,081,866円	2015年度実績: 181件 6,402,354円	2018年度実績: 126件 13,001,473円
2013年度実績: 277件 17,413,757円	2016年度実績: 179件 16,758,365円	2019年度実績: 139件 16,256,260円
2014年度実績: 191件 76,223,954円	2017年度実績: 153件 10,983,201円	2020年度実績: 141件 15,455,587円

2012年4月～2021年9月末までの累計 187,365,817円

学生へのご支援ありがとうございます 心より感謝申し上げます

Fuji Autumn Marché(藤オータムマルシェ)を開催致しました

2021年10月19日(火)～10月25日(月)の期間中、北16条キャンパスでは4日間、花川キャンパスでは5日間にわたり、学生への支援第三弾「Fuji Autumn Marché(藤オータムマルシェ)」を開催致しました。今回は、Fuji Student Assistant(以下、FSA)がイベントの企画から運営までを行い、連日多くの学生が会場を訪れて大盛況でした。学生同士、楽しそうな雰囲気笑顔あふれる数日間となりました。

来場した学生には、じゃがいも・たまねぎ・にんじん・りんご・コーヒー・レトルトシチュー等の食品品に加え、ホットクレンジングジェル・生理用品といった衛生用品も配られました。じゃがいもとたまねぎは、お米に引き続き、株式会社札幌設備様・石狩市保健福祉部様からご寄贈いただきました(じゃがいも:10kg×100箱 たまねぎ:10kg×100袋)。また、ホットクレンジングジェル(1,000本)は、今年7月に株式会社ランクアップ様からご寄贈いただいたものです。本学教職員から寄贈された他の物資とあわせて、学生支援に活用させていただきました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

活気を取り戻すきっかけとして FSA 英語文化学科3年 H.Aさん



「少しでも大学生活を彩るイベントのひとつになれば嬉しい」。そんな想いを胸に抱きながら企画・運営をした数週間でした。今回、物資を提供してくださった企業様、準備等ご協力いただいた教職員の皆様、そしていつも共に活動しているFSAと当日マルシェに足を運んでくれた学生の皆さんには、深く感謝しています。野菜を手に取り何を作ろうか話している学生の笑顔はとても印象的で、温かい気持ちになりました。個人的には「チームで動くための考え方」を多く学び、特にコロナ禍ではより一層求められる「協調性の大切さ」を強く実感する期間となりました。今後もFSAとして、大学や地域のために貢献できる機会があれば幸いです。



株式会社エフエム北海道様から文化総合学科1年生へ電池式ラジオが寄贈されました

文化総合学科1年生の必修授業で行われた7月の講演会をきっかけに、「ONE HOME ONE RADIO」の取り組みとして、株式会社エフエム北海道(AIR-G)様から文化総合学科1年生に電池式ラジオをご寄贈いただきました。

2021年10月11日(月)に本学で贈呈式が行われ、ラジオパーソナリティの森本優様から代表学生2名にラジオが渡されました。なお、贈呈式の後にはAIR-G様のご厚意でスタジオ見学にもご招待いただき、貴重な体験をさせていただきました。

ご寄贈いただきましたラジオは大切に使用させていただきます。温かにご支援、誠にありがとうございました。



文化総合学科1年 F.Yさん

ラジオ局見学をさせていただくことは初めてだったので、局内の設備の一つひとつに感動していました。また、パーソナリティの方々の番組への熱い思いが伝わり、我々リスナーのことを想って発信して下さっていることを改めて実感しました。このような機会をいただけたことを本当に有難く思っています。

文化総合学科1年 S.Mさん

AIR-G様の社内を見学し、実際にブースの中に入って、マイクの前で喋った時に自分の声はどう聞こえるのか体験させて頂きました。ラジオが全国に向けてどのように放送されているのかを知ることができ、大変貴重な経験になりました。



藤づる～繋がり～

しなやかで長く強い藤づる。
それは藤の学生、卒業生、教職員を繋ぐ絆のよう。

三角山放送局は、札幌市西区の地域情報を伝え、地域活性化を目指すコミュニティ放送局です。「いっしょに、ね!」をステーションコンセプトに、障がいのある方も女性も子供も、自分の思いをはっきり伝えることができるラジオとして、本学卒業生で同窓会「藤の実会」元会長の故・木原くみこさんが1998年に創業されました。また、同じく卒業生でフリーアナウンサーの塚なおこさんも、長年こちらで番組を担当されています。

この度、卒業生で三角山放送局スタッフの渡辺望未さんが企画された、大学生が出演する番組で本学学生がパーソナリティを担当することになりました。藤女子大学と関わりの深い三角山放送局における卒業生と在学生の交流についてご紹介します。



左から塚なおこさん、木原くみこさん、永田淑子理事長



三角山放送局
FM76.2MHz
渡辺 望未
文化総合学科
2015年卒業

ラジオで繋がる藤の絆

～藤の学生がラジオパーソナリティに～

私は2017年から三角山放送局に勤めており、番組制作を担当しています。コロナ禍で様々な活動ができなくなる中、若い方々にラジオの魅力を感じてもらい、地域の様々な方々との交流を深めてほしいという思いから、大学生がパーソナリティの番組「Sapporo Campus Radio」を立ち上げました。そこで、ぜひ母校の学生にパーソナリティを担当していただきたいと考え、在学時に大学祭実行委員会の活動で大変お世話になった学生課にご連絡しましたところ、企画について快く賛同くださり、藤女子大学の放送研究会を紹介してくださいました。番組制作に



三角山放送局のスタジオが入っている
レンガの館

あたり、今年3月頃から当時部長だったS.Mさんはじめ部員の皆さんに、番組のテーマ決めや機械操作、進行の練習のために何度も来局して頂き、準備を進めていきました。5月11日の初めての生放送では、緊張もあったかと思いますが、とてもフレッシュで楽しい番組を放送することができました。番組制作に熱心に取り組み、素晴らしいスタートダッシュをしてくれたことにとても感謝しています。その後、部長がU.Aさんに代替わりし、Zoomでのオンライン収録など、新しいことにも挑戦しながら、毎月の放送を行っています。今後も、木原くみこさんからはじまる藤女子大学と三角山放送局の繋がりを大切に、番組を楽しく続けていけたらいいなと思っています。



放送研究会前部長
文化総合学科 4年
S.Mさん

サークル活動を通して繋がった縁

藤女子大学の卒業生である三角山放送局の渡辺さんからラジオ番組のお話をいただいたのは今年2月のことでした。当時はまだ代替わり前だったため私が部長を務めており、放送研究会の代表として連絡をいただきました。私はこの時初めて地域を限定したコミュニティ放送について知ったのですが、一般的なラジオ番組に比べ、より地域に密着して情報を届けたり交流を深めたりすることができる点に強く惹かれ番組のパーソナリティを担当をさせていただくことにしました。



5月11日の初回放送の様子

新型コロナウイルスの影響で昨年からサークルとしての活動をほとんど行えていなかったため、久しぶりの活動に心躍る反面、参加人数の制限や打ち合わせの時間短縮等、様々な苦勞もありました。ですが、渡辺さんのお力添えや現部長であるU.Aさんの協力もあり、5月の初放送から部長の引き継ぎが完了した7月までとても楽しく活動を行うことができました。

新部長の苦難

S.M先輩から引き継ぎ、本学放送研究会の新部長となりました。新型コロナウイルスの影響がある中、大学の授業は原則非対面で実施、課外活動も対面での活動を原則禁止、非対面での活動のみ可能、という状況でした。私たち放送研究会はそのような活動制限の下で、この「Sapporo Campus Radio」(※)というラジオ番組の制作を中心に活動していました。ラジオ放送は基本的に生放送でしたが、情勢の変動によって急遽事前収録放送に移行したり、時にはZoomの音声を通してラジオ放送を行うなど、様々な苦勞に見舞われました。しかし、そのような中でも継続して順調に楽しく活動できているのは部員の協力と三角山放送局様のおかげです。心より感謝しております。



6月29日の2回目の放送の様子



放送研究会現部長
日本語・日本文学科 3年
U.Aさん

(※) 毎週火曜日午後4時から放送中です。月1回藤女子大学放送研究会が担当しています。



オンラインで開催

※撮影時につきマスクを外しています。

大学祭終了後にゲスト・アナウンサーの皆様とともに

大学祭

紬

- つむぎ -



藤陽祭実行委員会委員長
文化総合学科3年 M.Sさん



初のオンライン大学祭
カメラワークも担当

今年、2年ぶりに藤陽祭を開催することができました。それも藤女子大学初のオンライン開催でした。しかし、いざオンライン開催が決まった当初は大学祭を開催できる喜びよりも「見る人はいるのか」「どうやって配信するのか」という不安の気持ちが大きかったです。ましてや私たち3年生は2年前の一度しか大学祭を経験していませんし、1・2年生に関しては初めての大学祭です。委員のモチベーションもさぞ急降下してしまっただけでしょう。加えて緊急事態宣言の発令により対面活動が禁止されていたため、10月まではミーティングをZoomで行なっていました。なかなか先行きが見通せず、不安なまま時間だけが過ぎてしまいました。

そして、10月にやっと対面活動が解禁されましたが、そこから本番までは怒涛の2週間でした。ゲストとの打ち合わせや配信のリハーサルを通して、今まで不透明だった諸々の部分が姿を表し、大学祭の形が見えてきました。その分決めなければいけないことも多くあり、四六時中大学祭のことを考える日々でした。

また、対面活動が始まって短い期間ではありましたが1年生はステージに飾る看板を、2年生はゲスト控室やパネルの装飾を完成させてくれました。大学祭自体がよく分からない中でも学年の中で結束して与えられた仕事をこなしてくれる姿にとても感心しました。そして3年生には事あるごとに相談に乗ってもらい、職員の方々との打ち合わせを重ねながら大学祭の準備を進めました。

そのような中で迎えた当日は、ゲストの皆様、パネリストとしてご参加いただいた他大学の学生の皆様、司会を務めてくださったUHBアナウンサーのお二人、そしてご覧いただいた皆様のおかげで想像以上の大成功を収めることができました。今年の大学祭テーマ「紬-つむぎ-」には「コロナ禍でも新たな大学祭の形を見出す」という意味が込められていましたが、それを見事に達成できました。大学祭に携わってくださった全ての皆様へ心の底から感謝申し上げます。

結果論になってしまいますが、私はオンラインでの大学祭を開催できて良かったと思っています。何より、職員の皆様の有り難みを改めて感じました。今年の大学祭は職員の皆様のご協力が不可欠で、初めてのオンライン開催と一緒に挑戦していただきました。私たちと同じように職員の皆様も「大学祭を成功させたい」という気持ちを持ってくださっていることが伝わり、「良い大学だなあ」としみじみ思いました。

準備は大変だったはずですが、振り返れば楽しかったという感想しか浮かびません。もちろん反省点もたくさんありますが、それも含めてとても良い経験をさせていただいたと感じています。「頭がそれでいっぱいになる程何かに熱中して取り組む」ということは、コロナ禍に入ってから久しぶりの感覚でした。2021年度の実行委員長を務めることができ、ありがとうございます。

来年は一人の学生として、後輩が作り上げる大学祭を楽しみにしています。ありがとうございました。

北海道を拠点に活動している
ゲストの皆様



音楽ゲスト
Ryuki様



お笑いゲスト
しろっぷ様



音楽ゲスト
おちよ。様



ノール
音楽ゲストNORD様と一緒に
ダンスで盛り上がりました

大学混合パネルディスカッションに
参加した4大学の学生の皆様
(左から藤女子大学、北海道科学大学、
北海道大学、天使大学)



UHBの公式
YouTubeで当日の
様子が紹介されています



本番に向けての
打ち合わせ



実行委員と一緒に司会を務めて
くださったUHBアナウンサーのお二人
(左から福本義久様、柴田平美様 [本学卒業生])

仲間と共に落ち着ける場所



文学部
英語文化学科
3年
A.Hさん

私のお気に入りの場所はお茶室です。3階の保健センターの横にあり、私が所属する茶道部の活動場所です。学内で最も畳の香りを感じることができ、とても落ち着きます。水回りには竹が使用され、入口には綺麗な白い石が敷き詰められていて、初めてお茶室に入った時はとても驚きました。現在はコロナ禍で活動ができませんが、以前は週に2回自主練習をし、週に1回先生をお招きしてお稽古をしていました。大学祭では着物を着て、一般のお客様や在学生にお茶を提供し、和菓子も販売していました。また、季節のイベントごとに定期的にお茶会を開催し、部員が茶道のお点前を行います。お茶の世界は奥が深く、お茶室で使う道具や場所も季節によって変わってきます。実は畳が取り外せる部分があり、その中には炉が隠れているのですが、冬の間は畳をめくって利用します。季節のお茶会ごとに変化するお茶室の姿はとても美しいです。機会がございましたら、ぜひ覗いてみてください！



落ち着ける日本語・日本文学科研修室



文学部
日本語・日本文学科
3年
I.Tさん

私のお気に入りの場所は、日本語・日本文学科研修室です。日本語・日本文学科の学生なら誰でも利用でき、静かで落ち着いた場所です。研修室にあるパソコンを使い、レポートを仕上げることも可能です。研修室と同じ6階には日本語・日本文学科の先生方の研究室があり、先生方との話し合いにも利用することができます。私自身、ゼミの資料を整理したい時や日本語・日文学会学生会運営委員の活動をする際によく利用しています。日本語・日文学会学生会運営委員は大学祭や勉強会など学生向けの企画・運営を行うスタッフです。コロナ禍により様々な活動が難しくなっている現在ですが、研修室では密にならず勉強することができ重宝しています。特に講義に集中したいテストやレポートの時期も研修室で自習することで考えがまとまりやすくなります。日本語・日本文学科研修室は私の大学生活に欠かせない学内の場所です。是非皆さんも利用して実りある大学生活を送ってください。



図書館で穏やかなひとときを



文学部
文化総合学科
3年
H.Rさん

私のお気に入りの場所は、図書館です。入学後、静かで落ち着ける場所を探してたどり着き、授業のある日はほぼ毎日通うようになりました。今では学生スタッフ(通称LiSt)として勤務もしているのですが、変わらず空き時間に授業の課題に取り組んだり、本を読んだりしています。閲覧室や書庫には、各学科の授業に必要な専門書や教科書はもちろん、小説や雑誌も多数取り揃えられています。これほど大量の本を何の気兼ねもなく使えるのは大学生の特権ですね。また、視聴覚スペースには、国内外の映画のDVDが揃っており、その場で見る事が出来ます。私も、1年次には2コマ連続の空き時間があつたため、毎週映画を1本観るといふ何とも贅沢な過ごし方をしていました。このように、とにかくいろいろな過ごし方ができるのが図書館の魅力です。空き時間や放課後に、少し静かな場所でくつろぎたい、と思った際にはぜひ図書館に立ち寄りみてください。



昨年からコロナ禍での行動制限が続いており、十分なキャンパスライフを過ごせていなかった1、2年生へのメッセージも込めて、3、4年生が学内のお気に入りの場所を紹介してくれました。お楽しみください。

図書館で過ごす私の空きコマ



人間生活学部
人間生活学科
3年
T.Mさん

2年前の春、私は初めての履修登録に悩んでいた。必要な単位を数えて時間割を組むのだが、必修科目と選択科目のズレで「空きコマ問題」にぶつかる。次の講義まで何をしよう。

この日から私は図書館へ向かっていた。お気に入りの一冊との出会いに期待を寄せて本棚の間を進む。座席はいつも窓側を選ぶ。風の音、雨の音、季節の移ろいが時間の経過を教えてくれる。過ごし方は来るたび様々だ。静かに自習に取り組む日もあれば、旅行雑誌を開いて友人と長期休暇の計画を立てる日もある。色々な用途で使用できる空間に居心地の良さを感じている。花川館は私の専攻である家政学の専門図書が多く揃う。手芸や料理などモノづくりに没頭することが好きな私は、そのフロアを見て回ることが多い。写真は講義で取り組んだ刺繍の課題だ。参考資料を手に取り、ページをめくる瞬間のワクワク感がイメージを形にする。「私のやりたい」を叶える図書館は、時間と心を満たしてくれる。



お気に入りの場所 -生化学実験室-



人間生活学部
食物栄養学科
4年
K.Sさん

食物栄養学科では1、2年生の講義で学ぶ生化学と基礎栄養学について、3年生の栄養生化学実験において、科学的根拠に基づいて理解を深めることができます。私は卒業研究で実験を行っていますが、倫理的配慮のもとラットを個体ごとにケージ内で飼育し、毎日餌の摂取量や体重の計測、糞便掃除等をしています。命あるものなので、飼育の過程は楽なものではありませんが、私は実験を通じて日々たくさん学びを得ています。

コロナ禍で1、2年生は登校する機会が少なく、学内について知る機会が少ないなど、理想のキャンパスライフを送ることが出来ていないかと思いますが、座学で得た学びは3、4年生での実験や実習の土台となり、さらに知識を深め、自分の糧となるので頑張ってください。今後更なる有意義なキャンパスライフを送ることを心より願っております。



弾くことの楽しさ



人間生活学部
保育学科
3年
K.Rさん

保育学科・子ども教育学科では2年生から音楽の講義で座学とピアノレッスンが始まります。座学では楽典やソルフェージュ、歌唱法を中心とした演習、ピアノレッスンでは弾き歌いの童謡などのピアノ奏法を担当の先生と1対1で学ぶことが出来ます。私は音楽が好きでいつも楽しく講義を受けています。幼少期からピアノを習っていましたが「歌いながら弾く」という経験が無く、初めの方は弾き歌いにとっても苦戦しました。藤女子大学には20室以上のピアノ練習室があり、個人で自由に練習できる環境があります。私は講義と部活のすきま時間でピアノ練習室に行き、弾き歌い曲を沢山練習しました。「あめふりくまのこ」、「アイアイ」、「あわてんぼうのサンタクロース」、2年生から今まで沢山の弾き歌い曲を練習し、今では自分も楽しんで歌いながら弾けるようになりました。これからより一層練習に励んでいこうと思います。



1925年の開校の喜びと同時に初代校長の思いがけない帰天という哀しい試練のあとを引き継いだSr.クサヴェラは、開校直後の学校の教育と運営に全力を尽くしました。

1930年に第一回卒業式が行われ、117名が卒業しました。入学時には167名であったのに、5年間に50名もの生徒の病死や家庭の事情による退学。結核や脳炎などの病死が多く記録されています。また、卒業後の1年課程として家政補習科を開設する認可を得て、17名が入学しました。

1935年には、創立10周年記念式典と祝賀が荘厳かつ盛大に行われました。同窓会からの寄付によって、校庭に「奉安殿」(現在のマリア堂)が設けられて天皇・皇后両陛下の御真影が安置され、さらに、正門(南西角)が木の門柱から石の門柱になりました。

学内は平穏の内に過ぎていきましたが、1937年7月の盧溝橋事件以来、日本は中国との戦争に向かい、建築資材が高騰。計画していた札幌の藤幼稚園の建築コストが上がり心配しました。しかし、思いがけないアメリカの恩人のお陰で幼稚園が完成し、1938年に無事に開園。1938年9月には、ドイツからヒットラーユーゲントの少年たちが交流のため来道し、道庁からの要請により、少し恐れながらも野幌で彼らのための食事作りをしました。彼らの中にはシスターたちに親しみを表す子と、冷淡さを表す子たちがいま

した。

1939年1月には、文部省の役人と軍人による学校視察があり、神道に基盤を置く政府の精神に則って教育をしているか、非常に厳しく詰問されました。「天皇陛下とキリストとどちらが偉いのか」と。クサヴェラ校長の傍で牧野キクが、恐れることなく勇敢に答弁し、後でその時の軍人が「牧野という女は、何と気の強い女だ」と語ったとのこと。

教会の宣教師社団設立であったこの学校をより安定させるため、独立した社団の設立を1939年に申請しましたが学校のためには許可されず、1940年3月に財団法人設立の申請をしました。それに対して8月に、理事長は日本人でなければならないこと、その他にも追加や変更が求められ、9月に必要な書類を送って、とうとう12月13日に認可されました。財団法人札幌藤高等女学校に設置者変更、設立代表者はクサヴェラ・レーメで、Sr. 長船ヒロが初代の理事長です。



創立10周年記念に新しくされた正門(1935年)
右にはキリスト教のシンボル、左には学問のシンボル



創立10周年記念に設けられた奉安殿
扉は鉄製の三重扉で、上部に菊の御紋

大学拠点接種を実施致しました

本学では、8月31日から新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を開始し、10月3日をもって終了致しました(1回目接種:8月31日、9月4日、9月5日 2回目接種:9月28日、10月2日、10月3日)。

当日は、教職員に加えて、FSA(Fuji Student Assistant)として働く学生スタッフが受付や案内・誘導、接種後の手続き等を行い、接種を希望する本学の学生、教職員、関係者等が2回の接種を完了することができました。

今回の大学拠点接種の実施にあたり、ご協力くださいました医療従事者の皆様に、心より感謝申し上げます。

